



■ 西山病院グループ

中西 様子 さん (課長)

特定行為取得区分 (10区分18行為)

- 呼吸器 (人工呼吸療法に係るもの) 関連
- 呼吸器 (長期呼吸療法に係るもの) 関連
- ろう孔管理関連
- 栄養に係るカテーテル管理
(中心静脈カテーテル管理) 関連
- 栄養に係るカテーテル管理
(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理) 関連
- 創傷管理関連
- 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連
- 感染に係る薬剤投与関連
- 血糖コントロールに係る薬剤投与関連
- 精神及び神経症状に係る薬剤投与関連

受講の動機・きっかけは …

私自身、特定行為研修制度について何も知りませんでしたが見護師として何かを学びたいと思っていました。看護師として働いていてそれなりに

経験を重ねていましたが、「私だからできる!」と胸を張って言える看護が見つかっていませんでした。このままでいいのだろうかと思案とした不安を抱えていたところ、上司から特定行為研修を勧められて受講してみようと思案しました。

現在の活動と役割

組織横断的に活動し、依頼のあった病棟で特定行為を行ったり、患者ケアの相談を受けたりしています。またマニュアル作成や特定看護師の養成や活用に関する体制づくりをしています。

当グループでは特定看護師は病棟配置されているため、特定看護師がいる病棟では特定看護師がどのようなものが周知されていますが、特定看護師がいない病棟のスタッフはアウェイな感じで、他人事と捉えている部分も大きいです。そのため、組織横断的に活動し、実際に病棟スタッフと一緒にケアを行いながら、特定看護師の魅力が伝わるように啓発活動をしています。

特定看護師に対する理解は、スタッフだけでなく管理者によっても理解に差があるため管理者の理解を深める働きかけも必要だと感じています。その

ため、一般スタッフと管理者への啓発を行いつつ、病棟に所属している特定看護師とマネージャーがビジョン共有する研修を行っています。特定看護師は看護次長や看護部長が管理しているように思われている部分もありますが、一職員に変わりはありません。なので現場で特定看護師を育ててくれている看護師長には特に関わってもらいたいです。

また、医師との関係においてもお互いの思考が分かるようになると、医師も「特定看護師は医師の仕事を取ろうとしているのではない」と、信頼関係ができて協力的になってきました。お互いの専門性を理解すると、看護師側だけではなく医師側の視点も変わったように感じます。特定行為の有無に関わらず、情報を共有し、同じ方向に向かえるようになったと思います。今は良いパートナーとしてともに協力し合いながら、患者主体のケアを行っています。

■ 西山病院グループ

渡邊由香里 さん (係長)

特定行為取得区分

在宅・慢性期領域パッケージ
気管カニューレの交換
胃ろうカテーテル若しくは
腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換
褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない
壊死組織の除去
脱水症状に対する輸液による補正



受講の動機・きっかけは…

中西師長が特定看護師として医師と連携し処置や治療を行っている姿をみて、憧れを抱いたと共に、自分は現状維持で満足していたよいのだろうかと思い始めました。患者の「こうありたい」を叶える一歩を、率先して自信を持って踏み出した

現在の活動と役割

病棟に所属しており、夜勤業務も行っています。基本的には病棟の患者を対象に特定行為を行っていますが、毎週水曜日は特定看護師回診として横断的に特定行為を行ったり相談を受けたりしています。急な依頼に関してタイムリーな対応を心がけていますが、受け持ちを持ちながら特定行為を行うには正直なところ時間的余裕がなく、特定看護師を増やしていく必要があると感じています。特定行為研修を受講すると患者を多角的にとらえることが出来るようになるので、看護の幅が広がります。以前は医療者主体で処置やケアを行うことが多くありましたが、今は患者主体のタイムリーな関わりが行えるようになってきました。タイムリー

めに今の自分に何が出来るのか。主体的に考え自律した看護が行える看護師になりたいと思い、特定行為研修の受講を希望しました。受講当時は子供が7歳と4歳だったので両立が大変でしたが、協力的な夫と夫のご両親、そして病棟の仲間の支えがあり無事に修了することができました。

で適切なケアは症状緩和や患者の安心感に繋がります。また現場の病棟看護師と一緒にケア方法を考えているので、ケアを提供する看護師の安心感にも繋がっていると思います。特定看護師の認知度は高くなってきましたが、まだまだ希望者が少ないのが現状なので、特定看護師の魅力を職員に伝え、興味を持ってもらえるように働きかけていくことが今の私の役割だと考えています。

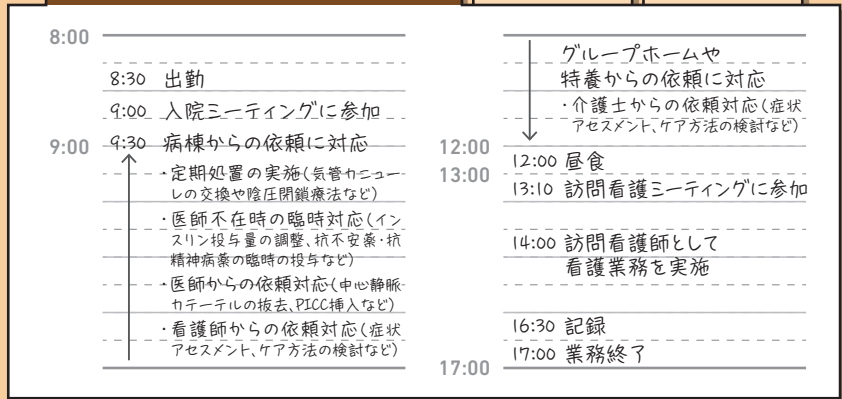


Schedule

■ 中西祥子さん



ある1日の私の動き

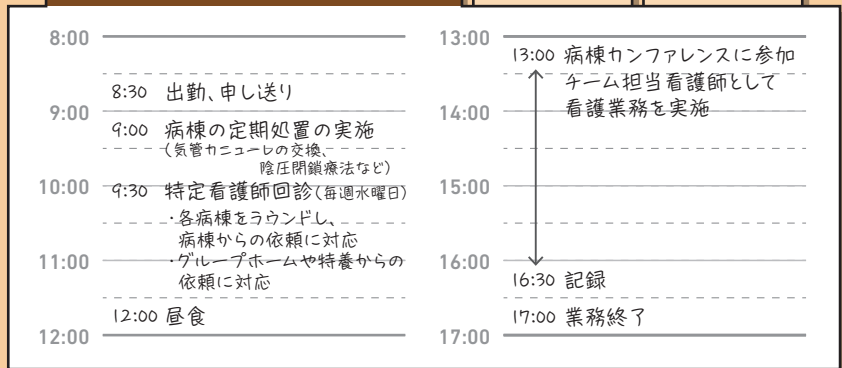


Schedule

■ 渡邊由香里さん



ある1日の私の動き



渡邊由香里さんの

休みの過ごし方

9歳の息子と6歳の娘とゲームをしたり体を動かしたりしています。寝る前に布団で相撲をとるのが日課になってます。休みが合う日には家族で出かけてリフレッシュしています。写真は夏に動物園に行った時のものです。

体を動かすことも好きですがそれ以上に家族みんな食べることも大好きです。回転寿司では家族4人で1万円超えは当たり前です笑。趣味は、1990年代の音楽が好きなので運転しながら歌っています。気持ちの切り替えになっています。



「看護の日」キャラクター
(静岡県) かんごちゃん

西山病院グループの組織ビジョン

辻村尚子看護部長さんからメッセージ

《特定行為研修導入の経緯》

2017年、当時看護次長で特定行為研修制度について、国からの説明文や様々な研修に参加、書籍等を参考にしましたが、国の方向性や、特定行為研修がどのようなものであるか、正直何も分からず手探りの状態でした。そのような状況の中、特定行為研修を修了したスタッフが1名誕生し、その特定看護師をどう活かせば良いのか悩み1年活動する場を提供できませんでした。そして、次にもう1人特定看護師が増えたことで、「二人が活躍できるようにしよう!」と会議を設立して、「とにかくやってみよう!」から始まりました。初めは反発が大きかったですが、一人一人の医師に説明して回り、特定行為の理解を深めてもらいました。医師が少ない当グループにとって特定看護師は、看護の視点を生かし、患者に寄り添ったタイムリーなケアを提供し、1+1が2ではなく3、4となるようなチーム医療を推進する架け橋となると思っています。

また、特定看護師の役割として看護の視点で患者に寄り添い、地域完結型医療に対し、看看連携を強化する一助となると思っています。

《特定看護師がいる意義》

特定行為研修の臨床推論やアセスメントは看護師として必要な能力です。根拠と安全性を理解したうえで患者をしっかりと観察し、判断し、適切に報告をすることは看護師として重要な役割です。特定看護師は看護師があるべき姿を考えるきっかけになると私は思います。普通に看護師がみんな特定行為研修を受講できると良いと思っています。

《今後の展望は》

看護部長になり、2年の間に特定看護師が数名誕生し、2023年には介護医療院に特定看護師を1名配置、現在グループ全体で8名体制となりました。目標は2021年～2030年までに14～16名の特定看護師を養成すること!各病棟に1～2名配置し、施設内で日勤に必ず特定看護師が勤務している体制を目指しています。



花島一哲医師からの応援メッセージ

まずは、特定看護師がいることでタスクシフトとして有効です。患者の対応をしているときに、医師が必要な案件があると病棟から呼ばれても病棟に向かえない、現在対応している患者の事に集中できない、という状況がありました。それが特定看護師が増えてくることで、ある程度任せられるようになったのはありがたいです。大きく任せていることとして、現在はほとんどの褥瘡処置を特定看護師が対応してくれています。特定看護師に任せることで、医師でなくてはできない仕事に専念できるようになりました。非常に助かっています。

育てた側が育てた人に助けられている。特定看護師は増えるとよいと思います。



看護部長、渡邊さん、指導医の花島先生、中西さん

特定看護師が記載したカルテの記録を見たときに、それまでは浅い対応だと感じることもあったケア内容が、今までより深い考察に基づいた適切なケア内容に変わっていた時はすごくうれしいです!一緒に働く者として、心強いです。

特定看護師が増えていくことが、目の前の患者、病院、世の中のためになる。実際に機能しているからこそ、病院の中で活動してくれているからこそ、強くそう思います!

西山病院グループは静岡県西部地域の高齢者医療の一端を担っています



医療療養型病院、介護医療院、介護老人保健施設等といった施設系サービス、グループホーム、訪問看護ステーション、通所リハビリテーション等といった在宅系サービスを有しています。